

記者発表資料

厳木バイパスにおける平成19年ハヤブサ繁殖状況について

○ 厳木バイパスの沿線において「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種に定められているハヤブサの営巣が確認されたため、本種の保護に向けて、平成17年5月に専門家からなる「厳木バイパス猛禽類調査保護検討委員会」を設立し、平成18年7月に保全措置を決定しました。その後、工事を平成18年秋より再開するとともに、引き続き現地調査、カメラ監視等によりハヤブサの生息状況の把握を行っております。

○ 平成19年の繁殖については、カメラ監視等により抱卵や巣内育雛期に移行していたと考えられていましたが、カラスにより雛3羽、卵2個が失われたため、繁殖に失敗したものと考えられます。

以下に、平成19年に確認できた繁殖を示唆する行動と繁殖失敗に関する確認状況を示します。

【繁殖を示唆する行動】

- ・平成19年1月以降に求愛給餌や交尾等を確認した。
- ・餌運搬回数が増加した（雛の一部がかえったと推察される）。
- ・営巣地で過ごす時間が増加した。
（監視時間帯のほとんどを営巣地で過ごす）

【繁殖失敗に関する確認状況】

- ・平成19年5月1日、カラスにより雛2個体、卵1つ持ち出される。
- ・ " 、ハヤブサ雌個体により雛（死亡個体）が持ち出される。
- ・平成19年5月2日、カラスにより卵1つ持ち出される。

尚、工事の実施にあたっては、カラスの生息を助長しないよう「ゴミや残飯は持ち帰る」等の注意事項を記載したハンドブックを作業員に配布して教育を行っています。

また、カメラ監視で撮影したビデオは、下記佐賀国道HPで公開しています。

◆佐賀国道事務所ホームページ (<http://www.qsr.mlit.go.jp/sakoku/>)

○ 今後とも引き続きモニタリング調査を実施するとともに専門家の意見を聞きながら、事業の進捗に合わせて保全措置を図り、ハヤブサの生息環境との調和を目指した事業の実施に取り組んでまいりたいと考えております。

*** 多数の人が営巣地付近に接近し、撮影行為等を行うことは、ハヤブサの繁殖活動を阻害することになるため、ハヤブサ等の飛翔状況、営巣地に関する情報の公表は、差し控えさせていただきますので、ご理解・ご協力をお願い致します。**

【問い合わせ先】

国土交通省九州地方整備局 佐賀国道事務所 副所長
[TEL:0952-32-1151 FAX:0952-33-2132] 調査第二課長

なか の みち お
中 野 道 男
たけ した たか ひろ
竹 下 卓 宏

巖木バイパスにおける平成19年ハヤブサの繁殖状況について

1. 調査の概要

(1) 調査方法

計画路線付近のハヤブサを中心とした猛禽類の生息状況を的確に把握するため、見通しの良い場所に定点を複数設け、猛禽類飛翔状況の観察を行いました。

○記録内容

〔種名、位置、個体数、飛翔軌跡、行動内容、出現時間〕
〔個体の特徴（性別、年齢、羽根の欠損など）〕

また、ビデオカメラによる観測システムを設置し、継続的なモニタリングを実施しました。



(2) 現地調査期間

■猛禽類調査

<平成19年繁殖期>

- ・繁殖期調査 : 平成19年1月～6月、各月1回、3日連続
- ・非繁殖期調査 : 平成19年10、12月、月1回、3日連続

■ビデオカメラによるモニタリング調査（継続中）

平成17年12月～平成19年6月

2. 調査結果の概要①

巖木バイパス（長部田 I C～岩屋 I C間）の猛禽類保全措置を決定した「第4回 猛禽類調査保護検討委員会」までに、平成17、18年において繁殖が失敗したことを報告しました。

その後の平成19年の繁殖期には、ハヤブサの交尾や餌運搬が確認され、下図に示すとおり、平成19年2月下旬以降に営巣地に滞在する時間が長くなったことから、抱卵や巣内での雛を育てる期間に入ったと考えられました。

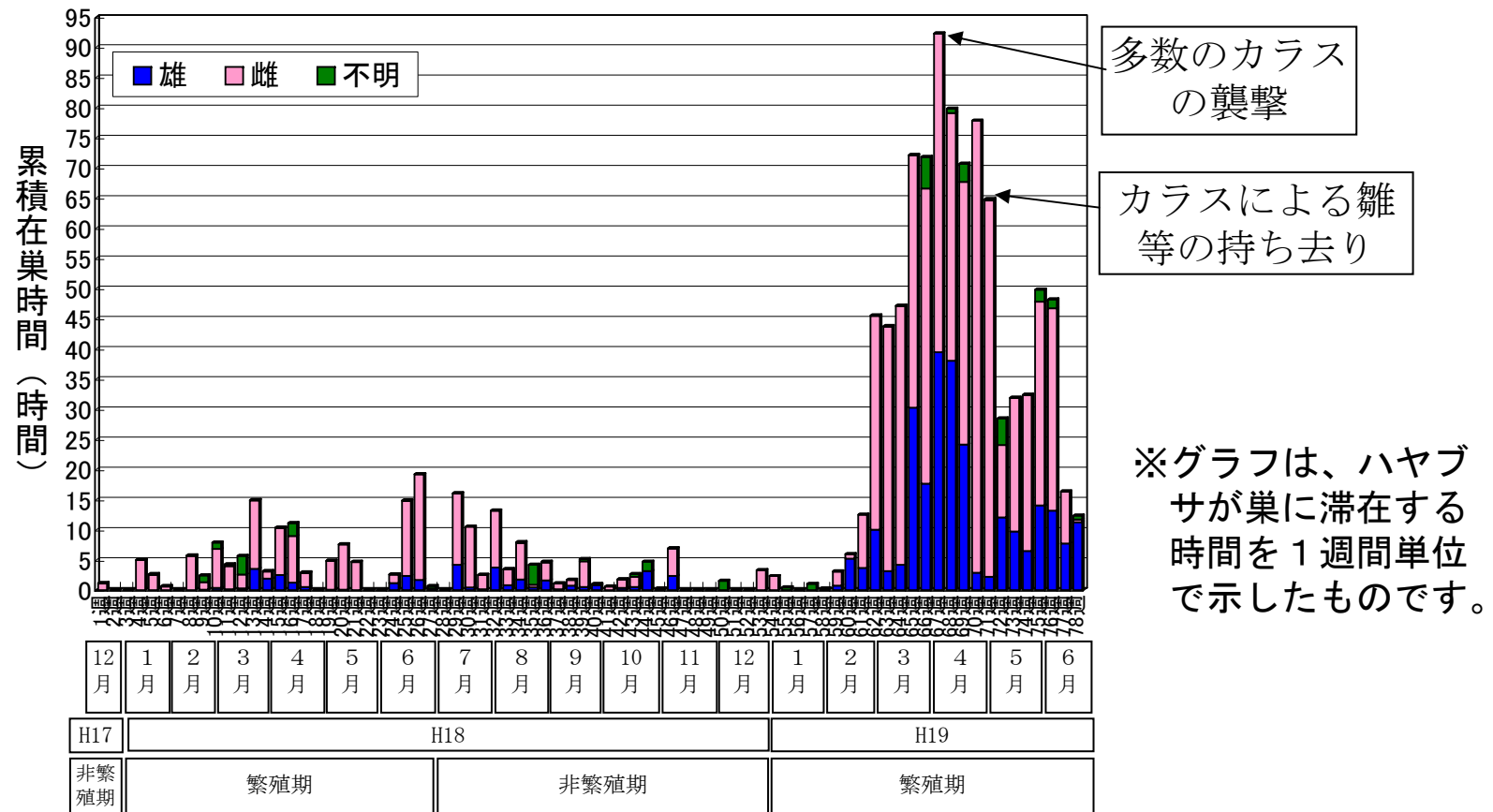


図 在巣時間の経時変化 (H17. 12. 24～H19. 6. 25)

2. 調査結果の概要②

・雌雄の在巢時間の割合

平成18年4月1日から平成19年6月25日までの雌雄の在巢時間の割合は、右に示すとおりです。

これより、雄は241日で確認され、累積時間は約287時間でした。雌は239日で確認され、その累積時間は約751時間でした。

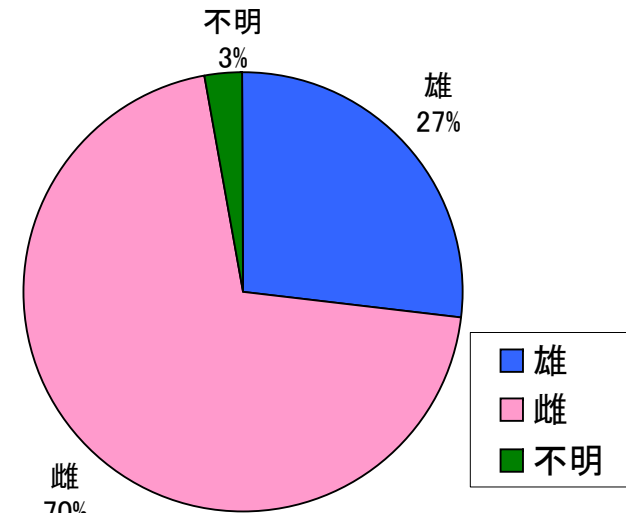


図 雌雄の在巢時間の割合

・時刻別在巢時間

平成18年4月1日から平成19年6月25日までの解析期間内の時刻別の累積在巢時間は、右に示すとおりです。

時刻別には10時台から16時台の間に在巢する割合が高く、15時付近に在巢のピークがありました。

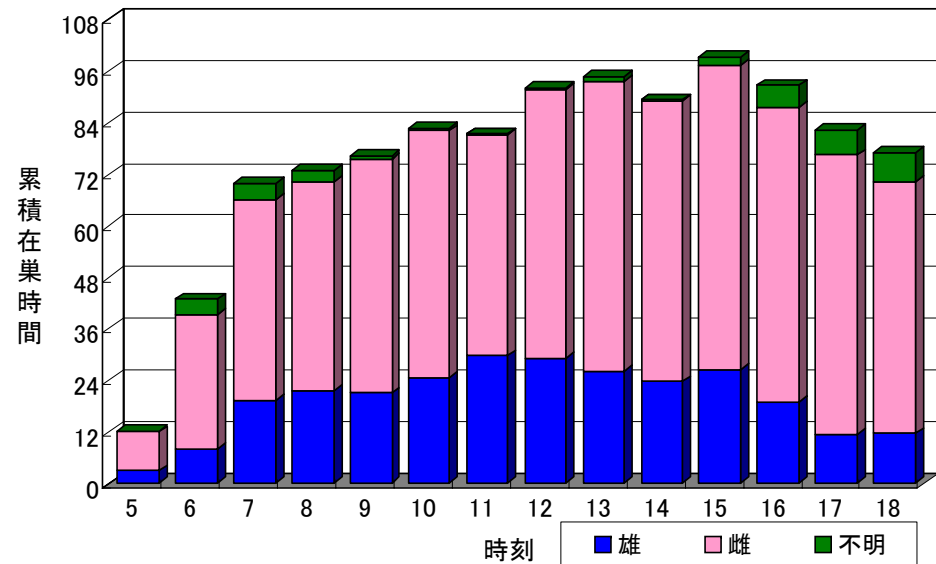


図 時刻別累積在巢時間

◆カラスによる繁殖阻害の確認について

平成19年3月31日に営巣地において多数のカラスの襲撃を確認しました。その際には、雌個体が営巣地に居たため卵や雛に被害はなく、その後引き続き抱卵が行われたと考えられました。

しかし、5月1日から2日にかけて、ハヤブサ成鳥雌雄が営巣地を離れた間にカラスの襲撃を受け、雛3羽、卵2個が失われており、通常のハヤブサの産卵数（3～4個）からすべての雛や卵を失っていることから、平成19年の繁殖は失敗したものと考えられます。

尚、工事の実施にあたっては、カラスの生息を助長しないよう「ゴミや残飯は持ち帰る」等の注意事項を記載したハンドブックを作業員に配布して教育を行っています。



【カラス飛去直前】
白い雛をくわえて飛去した。



【カラス飛去直前】
卵をくわえて飛去した。

○今後とも引き続きモニタリング調査を実施するとともに専門家の意見を聞きながら、事業の進捗に合わせて保全措置を図り、ハヤブサの生息環境との調和を目指した事業の実施に取り組んでまいりたいと考えております。

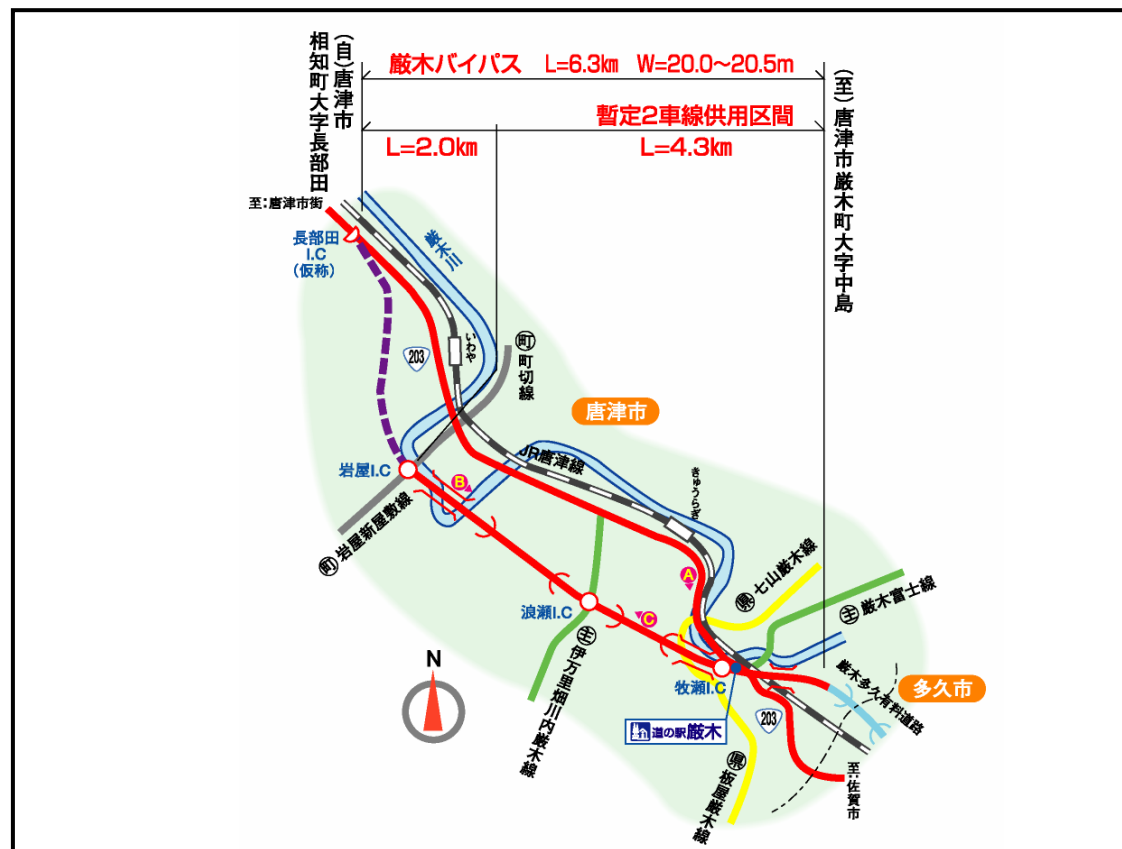
* 多数の人が営巣地付近に接近し、撮影行為等を行うことは、ハヤブサの繁殖活動を阻害することになるため、ハヤブサ等の飛翔状況、営巣地に関する情報の公表は、差し控えさせていただきますので、ご理解・ご協力をお願い致します。

◎路線の概要

一般国道203号巖木バイパスは、地域高規格道路の佐賀唐津道路の一部を構成する道路です。

この佐賀唐津道路は「県内主要都市間55分圏構想」の実現を支援し、将来は西九州自動車道や有明海沿岸道路等と連結し、幹線ネットワークを形成するとともに、佐賀空港や唐津港などの広域交通拠点とも連結するなど、非常に重要な役割を備えています。

現在、巖木バイパスのうち、巖木多久有料道路から岩屋IC間（約4.3km）が供用開始しており、残る岩屋ICから長部田IC（仮称）間（約2.0km）について、事業を推進しています。



ハヤブサの動画については、佐賀国道事務所ホームページに掲載しております。閲覧方法は以下のとおりです。

①佐賀国道事務所HP (http://www.qsr.mlit.go.jp/sakoku/) を開き、『巖木B Pハヤブサコーナー』バナーをクリック。



②『巖木B Pハヤブサコーナー』のバナーをクリックすると、ハヤブサ動画やこれまでの記者発表資料などがご覧頂けます。

巖木バイパス周辺にハヤブサが発見されたことから、保全対策の検討結果やハヤブサの最近の生息状況を紹介します。

- 2007.06.29 H19繁殖期の結果報告
 - 記者発表資料
 - ハヤブサ状況①
 - ハヤブサ状況②
 - ハヤブサ状況③
- 2006.07.27 委員会検討結果(保全対策等)
 - 記者発表資料
 - ハヤブサ状況①
 - ハヤブサ状況②
 - ハヤブサ状況③
- 2005.05.24 委員会発足
 - 記者発表資料

今回記者発表した内容です。